



©岐阜県

今号の内容「普及に移した技術・品種の紹介」

- 鉢花用サルビア新品種「ミライ」シリーズ3品種の育成
- クリ栽培における夏季の高温・少雨対策技術の開発

清流の国ぎふ

鉢花用サルビア新品種「ミライ」シリーズ3品種の育成

【支所担当/服部哲也】

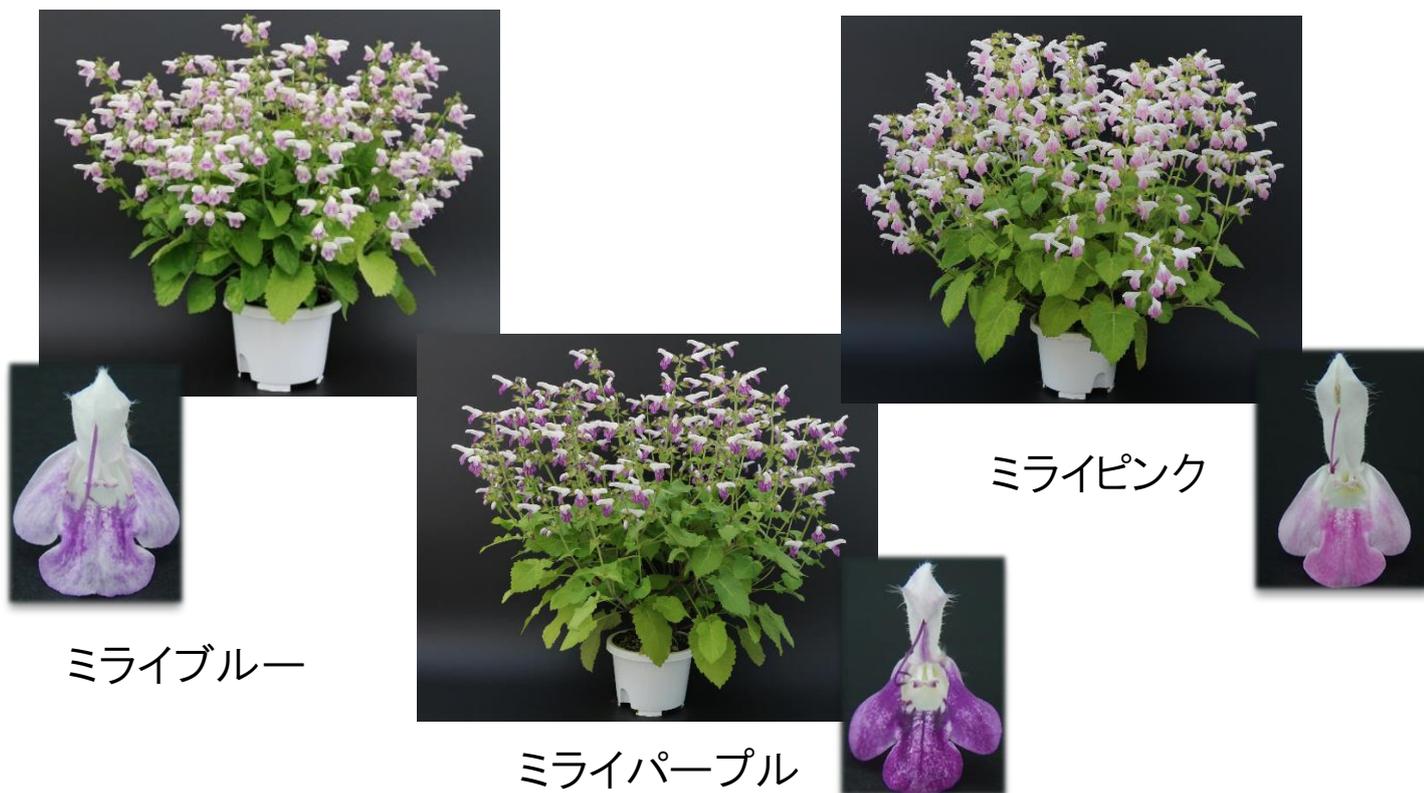
中山間地域の夏季冷涼な気候を活かし秋に出荷が可能な県オリジナルの品種・品目を育成するため、サルビアの仲間では日本固有種のアキギリに着目し、鉢花用新品種の育成に取り組みました。

その結果、草姿がコンパクトで、花つきがよく、花色が華やかな3個体を選抜し、花色の特徴からそれぞれ「ミライブルー」、「ミライパープル」、「ミライピンク」と命名し、令和2年3月に品種登録申請しました。本年から現地での栽培が始まり、10月から販売が開始されています。

- 「ミライブルー」 草姿はコンパクト、花色は白地にかすり状の青色、開花期が9月下旬頃(最も早く開花)
- 「ミライパープル」 草姿はボリュームがあり、花色は白と紫のバイカラー、開花期は10月上中旬頃
- 「ミライピンク」 草姿はボリュームがあり、花色は白とピンクのバイカラー、開花期は10月上中旬頃

表 育成品種の生育特性(令和元年度)

品種名(出願番号)	開花期 (月. 日)	草丈 (cm)	株幅 (cm)	花序長 (cm)	花序数 (本/株)
ミライブルー (第34577号)	9.27	30.1	30.5	16.3	24.4
ミライパープル (第34576号)	10.10	44.5	47.8	15.7	18.1
ミライピンク (第34578号)	10.10	42.6	54.9	15.0	16.0



ミライブルー

ミライパープル

ミライピンク

図 育成品種の花色、草姿

地球温暖化に伴う夏季の高温や少雨は、クワ栽培に悪影響を及ぼすことが懸念されます。これまでに、所内で高温、少雨条件が収量、品質に及ぼす影響を調査したところ、気温が高く、雨が少ない条件では、収量や果実品質の低下することがわかりました。

そこで、今後の温暖化の進行に備えて対策技術を検討した結果、5～6月頃に木材チップ堆肥をクワの樹冠下にマルチ処理することで(図1)、夏場の土壌水分の減少を40～60%抑制し(図2)、収量・一果重の低下、シワ果・生理落果の発生を軽減でき(表1)、対策技術として有効であることを明らかにしました。



図1 マルチ処理の様子

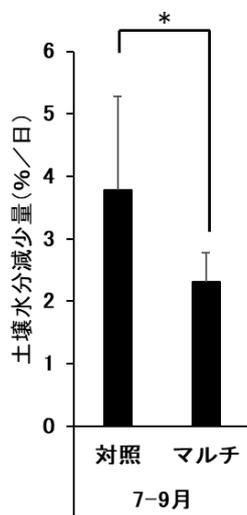


図2 対策技術の土壌水分減少に対する抑制効果 (R元年)

表1 マルチ処理がクワの収量、品質に及ぼす影響

品種	年度	試験区	生理落果(%)	総収量(kg/樹)	一果重(g)	シワ果(%)
えな宝来	H30年	マルチ	2.7	2.2	23.9	2.6
	R元年	マルチ	11.7	1.4	23.4	6.0
えな宝月	H30年	マルチ	30.0	2.7	18.8	1.5
	R元年	マルチ	30.2	2.4	17.5	1.3
えな宝来	H30年	無処理	22.2	1.1	21.3	1.2
	R元年	無処理	30.3	0.8	20.4	13.1
えな宝月	H30年	無処理	13.6	2.8	17.9	0.5
	R元年	無処理	19.2	3.0	13.7	4.6

※樹齢：4年生
 シワ果：出荷できない不良果
 試験年度の気象条件：
 H30年：7月上旬～8月上旬が高温、少雨
 R元年：8月上旬、9月上中旬が高温少雨
 供試品種の収穫期
 えな宝来：8月下旬～ えな宝月：9月中旬～

スマート農業推移機能の全県拡大 — 研究所が情報発信拠点に —

当研究所(本所、支所)と農業技術センターは、スマート農業技術の導入を推進するため、本年度から情報発信拠点として位置づけられ、期間(各2回/年)を定めてスマート農機を展示、貸出しています。

当研究所における今後の予定は以下のとおりです。
 貸出の手続きについては、各農林事務所へご相談下さい。

- 本所(飛騨市古川町)
 - ・展示期間：令和3年9月3日から10月29日
 - ・貸出期間：令和3年9月10日から10月29日
- 中津川支所(中津川市福岡)
 - ・展示期間：令和3年11月5日から12月24日
 - ・貸出期間：令和3年11月12日から12月24日



リモコン草刈り機等



アシストスーツ



【貸出機械・機器】

- リモコン式等草刈機 4機種・各1台
- アシストスーツ 4機種・各1台
- 自動追従運搬車 2機種・各1台